

日・タイ指示詞の対照研究
— 「コ・ソ・ア」の誤用分析を中心に—

ワーサナー ウィーラパーブック

要 旨

本稿では タイ人学習者の「コ・ソ・ア」の非現場指示用法^(註1)におけるよりよい指導法を考えるために、日・タイ指示詞の対照研究及び「コ・ソ・ア」使用の誤用分析を行った。その結果、タイ人学習者は「コ・ソ・ア」と「NIH・NAN・NOON」を同じものと見なすため、母語の転移が習得過程に影響を与えるということが分かった。学習困難点としては「コ」と「ソ」及び「ソ」と「ア」の使い分けが挙げられる。特に学習レベルに関わらず、「ソ」の習得が困難であることが分かった。

【キーワード】 指示体系 三項対立 日・タイの対照研究 誤用分析 母語の転移

1. 問題と目的

「コ・ソ・ア」の研究史の出発点としては、佐久間鼎 (1951) の研究がよく知られている。それに引き続いて、堀口 (1990)、正保 (1981)、金水・田窪 (1990) 等が挙げられる。これらの研究においては、話し手の気持ちの度合い、対話者同士の共有知識、対象の導入者等のような抽象的な要因が「コ・ソ・ア」の「意味用法」を左右すると考えられてきた。

しかし、日本語教育への応用を考えると、このような抽象的な説明よりも学習者にとってより分かりやすい用法の説明が必要であると思われる。このような課題に応えようとした研究として迫田 (1991) の「日本語学習者による指示詞「コ・ソ・ア」の習得に関する研究」がある。

迫田の研究においては、三項対立指示体系を持つ韓国語、タイ語を母語とする学習者と二項対立指示体系を持つ英語や中国語を母語とする学習者を対象としている。結果として、前者は後者に比べて、「コ・ソ・ア」の習得に母語の正の転移が見られるという。しかし、迫田の

研究では、学習者の母語別による考察はなされていないし、その調査の結果に対しては、タイ語との対照研究を考えた場合に次のような疑問が生じると考えられる。

1. タイ語の場合、母語指示体系が日本語と同じように三項対立であっても、「コ・ソ・ア」と「NII・NAN・NOON」の意味用法が異なっているのではないか。学習困難点として「ソ」と「ア」の使い分けだけでなく、「コ」と「ソ」の使い分けも挙げられるのではないか。
2. 習得の面では、二項対立の学習者のほうが三項対立の学習者より注意を払って「コ・ソ・ア」を使い分けるのではないか。言い換えれば三項対立の学習者は「コ・ソ・ア」を自分の母語と同じのものと見なし、負の転移による誤用を犯しがちなのではないか。
3. (1)、(2)で述べた理由によって、学習レベルが上がっても、「コ・ソ・ア」の習得がなかなか進まないということが起きるのではないか。

上記の疑問に答えるために、筆者は迫田の分類をもとに、日・タイの指示体系の異同を明らかにし、タイ人学習者の「コ・ソ・ア」の習得状況を調べることにした。

2. タイ語の「NII・NAN・NOON」

タイ語では、文脈上の対象（場所・時点）を指示する場合、「NII」「NAN」「NOON」を用いる。しかし、他の対象（人・事柄）を指示する場合、「NII」と「NAN」しか用いられない（慣用的表現を除く）。これに関しては、いくつかの例を以下に述べる。

「NII」 {太字 = 指示対象（語、句、文）、下線 = 指示詞}

- (1) 「Aは父に土地の話をする。それについて何も分からない妹Bがいる」(漫画)

① A : sanāam koof kap baan táakaakat thúuk nai *wattchalee*
khúu práp yēeg sùu pai lēew

(訳) ゴルフ場やリゾート地を作るための土地が父さんのライバルの
ワッシャレに取られちゃったんだよ。

B : khrai kha phii nai wattchalee nii na?

(訳) コノ ワッシャレ ってどんな人。

② A : nõɔŋ ɔɔn pɛŋ kláp caak mʉwɔŋ nõɔk khɔŋ mǎi rùu wǎa
nai khon nii khwɔw khùu prap kào khɔŋ khun phòɔ raw

(訳) 君は海外から帰ったばかりだから、知らないはずだ。コノ人は
父さんの宿命のライバルだ。

① Bは知らない対象の「ワッシャレ」を自己に関わりが強いと認定し、主観的・強調的に指示している。② AもBの対象についての知識のないことを無視し、同じく「NII」でその対象を指し示している。この「NII」は、対象が聞き手を含む「私達」と密接な関係にあるために使われると考えられる。こうして、「NII」は対話者同士の間一体感や仲間意識を持たせるのである。この場合、日本語の「コ」はあまり使用されていない(迫田1991を参照)。

「NAN」

(2) 「AとBは昨日パーティーに行ってきた」

A : thii gaan partii mʉwɔwɔan chǎn cǎə khon chũw *yamadadũilá* ?
dái yin wǎa khon nán yúu mwaŋ thai maa lǎai pii lèew

(訳) 昨日のパーティーで山田という人にあっただけど、... ソノ
人はタイに長年いるそうだ。

B : ɔɔ? khon nán narəə? kháw phũud phaasaa thai géŋ cɪŋ cɪŋ na

(訳) ああ、ソノ人、タイ語も上手だよ。

Aは対象の「山田」をあまり親しみがない人だと捉え、平静かつ客観的に指示している。しかし、Aは「山田」についての知識をBと共

有しているかどうかという点に関しての考慮を一切していない。そこで、この場合は日本語の「ソ」と部分的に異なっている。

「NOON」

(3) 「傷の話」

A : nân plɛɛʔ mwarái rəə (訳) それ、いつの傷なの？

B : ɔɔn pai lɛn saki nâ (訳) 修学旅行の時スキーで怪我したの。

A : aa tɔɔn noon rɔw (訳) ? アノ時の傷なの？

時点を指示する場合、「NOON」は「共有知識」を指示するのではなく、過去において出来事が起こった、あるいは未来において起こる時点を指示する。すなわち、その時点が自分から「遠」と感じられるものを「NOON」で指す。これに対し、その時点が自分に「近」と感じられるものを「NAN」で指す。場所の場合もそうである。日本語では「ア」を用いると、非文となる。

3. 調査概要

3-1 調査前の準備

本調査に利用した二つの問題形式は次の通りである。

1. 指示詞のテスト (コ・ソ・アのテスト) : 迫田 (1991) の分類に示された「コ・ソ・ア」の各用法の使い方を調べるため、15問の会話文を作成した。選択式で「コ・ソ・ア」に○をつけてもらうものである。
2. クローズ・テスト : タイ人学習者の学習レベル別の習得を把握するために、クローズ・テストを兼用することとした。

3-2 被験者

タイ人学習者 : 上級 (A) 50人 中級 (B) 50人 初級 (C) 50人
日本人母語話者 : 50人

4. 調査の結果と考察

ここでは、タイ人学習者の「コ・ソ・ア」使用の正用・誤用の背景

について考察を行うため、タイ人学習者と日本人母語話者の使用率の比較及び初・中・上級タイ人学習者のレベル別の比較をする。さらに、母語の干渉の可能性を探るために、「コ・ソ・ア」の各用法を対照言語学的に検討し、同場面におけるタイ語の「NII・NAN・NOON」が日本語の場合と同様であるかどうかを考察する。

4-1 タイ人学習者の「コ系」の調査結果と考察

表1は「コ系」と「NII系」の意味用法に基づいた対照関係を示したものである。そこで、表1に従って、「コ系」を「コ₁」から「コ₅」に分け、それぞれの項目についての結果をまとめ、若干の考察を加える。

表1 「コ系」と「NII系」の対照 *誤用 +使われる -使われない

用法	意味	項目	NII	NAN	NOON
文脈	-話し手が対象を導入する	コ1	+	-	-
	-対話相手が対象を導入する	コ2*	+	+	-
観念	-身近な対象を指示する	コ3	+	-	-
単純	-後行詞を文脈照応的に指示する	コ4	+	-	-
絶対	-話し手の位置を指示する	コ5	+	-	-

正用率 (≥50%)

○ = 正用

コ₁ A: 日本には「トキ」という鳥がありますが、○この鳥は特別天然記念物に指定されています。

コ₃ A: ことしの夏休みはどうするの?

B: そうねえ、子供に絵を教えるアルバイトがあるんだけど、

○これなら、私でもできるんじゃないかと思って。

コ₄ A: ○この話は山下さんから聞いたんだけど、来月山田さんは転校するそうよ。

コ₅ A: あ、すみません。○このへんに銀行はありませんか?

誤用率 (≥50%)

× = 誤用

コ₂ A: 卒業したら、どうするつもり?

B：×このことで今悩んでいます。国に帰るか、ここで就職するか
まだ迷っています。

コ₁、コ₃、コ₄、コ₅の用法はタイ語の「NII」の用法と同じである。そのため、正用が多かったのは、日・タイの対照からは、用法が共通していることから、学習者は「類推」(analogy)^(註)により習得し易かったためではないかと考えられる。

コ₂の用法はタイ語の「NIJ」、[NAN]の用法と同じである。「NII」の意味用法から考えると、学習者は対象の「将来のこと」を身近なものと認定し、母語と対応する「コ」を用いるのではないかと考えられる。

[NAN]は「ソ」と同じく対象を平静に指示するが、対話相手が対象を談話に導入するという導入者優先の原則がない。そのため、「ソ」はあまり用いられないと考えられる。

「コ系」の場合、各項目を通して、学習レベルに応じた学習効果が見られた(図1参照)。さらに、学習レベルが進むにつれて、誤用とされる「コ₂」の使用は減少している傾向が見られる。このように、「コ系」を習得できるのは母語に共通している意味用法があるからだと言えよう。

4-2 タイ人学習者の「ソ系」の調査結果と考察

表2は「ソ系」と「NAN系」の意味用法に基づいた対照関係を示したものである。そこで、表2に従って、「ソ系」を「ソ₁」から「ソ₄」に分け、それぞれの項目についての結果をまとめ、若干の考察を加える。

表2「ソ系」と「NAN系」の対照 + 使われる - 使われない

用法	意味	項目	NII	NAN	NOON
文脈	一話し手が対象を導入する	ソ1	+	+	-
	一対話相手が対象を導入する	ソ2	+	+	-
観念	一対象を漠然と指示する	ソ3	-	+	+
単純	一前行詞を文脈照応的に指示する	ソ4	-	+	-

図1 「コ系」の使用状況

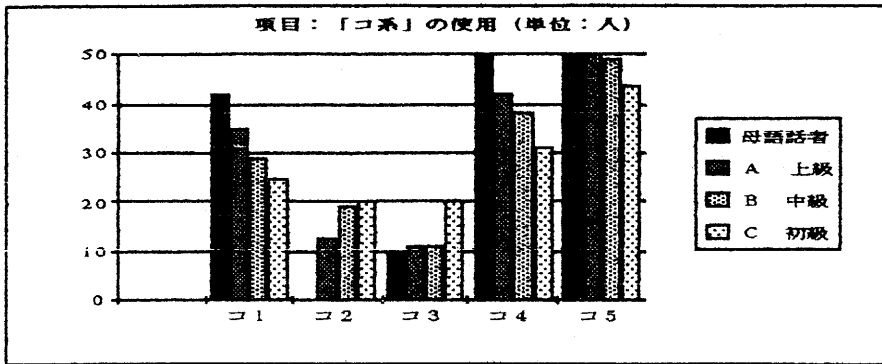


図2 「ソ系」の使用状況

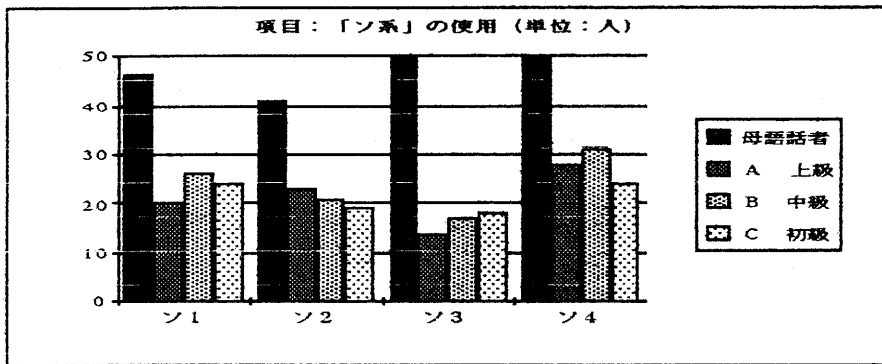
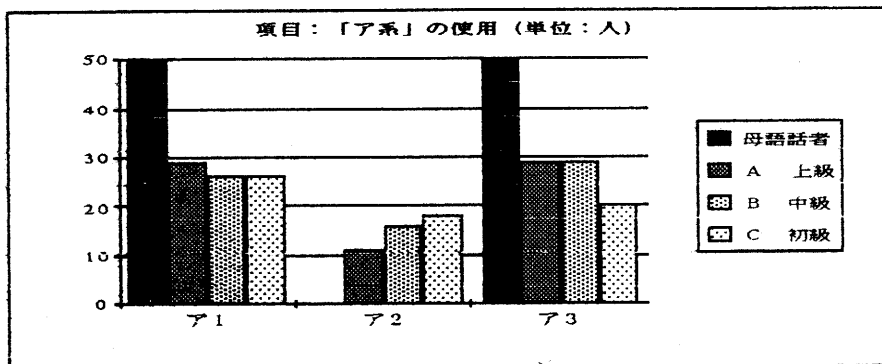


図3 「ア系」の使用状況



誤用率 (≧50%)

× = 誤用

- ソ₁ A : . . . 山口太郎先生のエッセーを読んだけど、×この山口先生って知っている？
B : ああ、よく知っているよ。
- ソ₂ A : 日本には「トキ」という鳥がいますが、この鳥は特別天然記念物に指定されています。
B : 最近 ×この鳥は減ってきたそうですね。
- ソ₃ A : どちらへ？
B : ちょっと ×あそこまで. . .
- ソ₄ A : 松下学校にはどういけばよろしいでしょうか。
B : 松下学校ですか？ここからちょっと遠いですが、この角を曲がって、200メートル程行くと交番がありますから、×あそこで聞いてください。

ソ₁とソ₂の用法はタイ語の「NII」、「NAN」の用法と同じである。そこで、なぜ、学習者の「ソ」の使用率は50%に達していないのかを考えてみると、対象を主観的・強制的に指示する「NII」の干渉によることが考えられる。このような現象は「コ₂」にも共通する。こうした傾向の中で、学習者は自分の母語ではっきりした区別がないもの、すなわち、「NII」と「NAN」については、その区別はあまり重要ではないので、「コ」と「ソ」の使い分けもしなくていいはずだと思いつ込んでいるようである。

ソ₃とソ₄の用法はタイ語の「NAN」の用法と同じである。タイ語にもこの用法があるにもかかわらず、学習者は遠い「銀行」または「郵便局」を漠然と指示することによって「NOON」に当たる「ア」を選択する。その他、学習者は初級で学習した現場指示用法についてわずかな知識を頼りとしているように思われる。これは、非現場指示

用法を文法の積み上げ式として教えない限り、初級段階で文法項目の訓練上の転移 (transfer of training) が起こって誤用と結びつくのではないかと考えられる。

「ソ系」の場合、各項目を通して、「ソ系」の習得は学習レベルに応じて進んではいない (図2参照)。このような「停滞」 (stabilization) ^(注)の原因は二つあると考えられる。一つは「ソ」の意味用法が母語「NAN」と部分的に異なっているため、それが習得しにくいことである (ソ₁、ソ₂)。もう一つは、「ソ」の意味用法が母語「NAN」と類似しているにもかかわらず、正の転移が働かないことである (ソ₃、ソ₄)。

4-3 タイ人学習者の「ア系」の調査結果と考察

表3は「ア系」と「NOON系」の意味用法に基づいた対照関係を示したものである。そこで、表3に従って、「ア系」を「ア₁」から「ア₃」に分け、それぞれの項目についての結果をまとめ、若干の考察を加える。

表3 「ア」系と「NOON」系の対照 *誤用 +使われる -使われない

用法	意味	項目	NII	NAN	NOON
文脈	-対話者同士の共有知識を指示する	ア1	-	-	-
	-対話者同士の非共有知識を指示する	ア2*	-	-	-
観念	-遙かな対象を指示する	ア3	-	+	-

正用率 (≥50%)

○ = 正用

ア₁ A: けんくん(Bの弟)は今、受験勉強しているの?

B: ええ、○あの子は来年東京大学に行くと言っているの。

ア₂ A: 子供の時、一度自転車で転んでしまって、大怪我したの。

B: 手にある傷は○その時の傷なの?。

誤用率 (≥50%)

× = 誤用

ア₃ A: お母さん、×その時計はどこ?

B: ここにあるわよ。

ア₁とア₂の用法はタイ語の用法にはない。では、なぜ、学習者は正しく使っているのだろうか。それは「ア」の使い方をすでに学習し、その規則を認識しているからだと言える。と同時に、このことから、学習者は非共有知識を「ソ」で指示することをすでに教わったことがうかがえる。

ア₃の用法はタイ語の「NAN」の用法と同じである。タイ語ではよく知っている対象を観念的に指示する場合、「NAN」を用いるのが普通なので、学習者は「NAN」に当たる「ソ」を使用すると考えられる。

「ア系」の場合、各項目を通して、学習者の使用は学習レベルに応じて日本人の使用に近づいている結果が得られた（図3参照）。さらに、学習のレベルが上がるにつれて、誤用すなわち、ア₂の使用が減少しているという傾向が見られる。

5. まとめ及び日本語教育への提言

以上の調査結果から、次のことが結論として得られた。

- 【1】学習者は「NII」を「コ」、「NAN」を「ソ」、「NOON」を「ア」と対応させ、誤用を犯しやすいことが分かった。
- 【2】学習困難点としては「コ」と「ソ」及び「ソ」と「ア」の使い分けがある。特に、「ソ」の習得が困難である。
- 【3】母語の転移は「コ・ソ・ア」習得過程に影響を与える。すなわち、「コ」の場合、意味用法が「NII」に共通しているため、その指示詞は習得されやすい。この結果は迫田の結果（学習レベルが進むにつれて、「コ系」の習得が進んでいる）と一致するといえる。「ソ」の場合、意味用法が「NAN」に部分的にしか重ならないため、負の転移が働き、学習が非常に妨げらる。しかし、この結果は迫田の「ソ」に関する結果（「ソ」系が過剰般化しているため、「ソ」系は中級から上級の段階で習得が進んでいる。）と一致しない。「ア」の場合、意味用法が「NOON」と異なっているため、習得されにくい結果が観察さ

れた。一方、学習レベルの増加に従って、学習者の「ア」の使用は誤用（ア₂）が減少し、日本人の使用に徐々に近づいていく傾向が見られた。

以上のように、「ソ」と「ア」の使い分けは教師によって説明されているにもかかわらず、「ア」の過剰般化の現象が観察された。このことから、教師の導入の仕方やドリルに問題があるのではないかと思われる。その他、「コ」の多用及び「ソ」の「停滞」も見られる。このことから、「コ」と「ソ」の使い分けの説明が軽視されがちなのではないかと考えられる。

したがって、談話の中で指示詞をどのように使用するかを教師が明確に例を挙げて説明する必要があると思われる。そこで、日・タイの指示詞においては、相違がある意味用法を徹底的に説明する必要がある。その際、学習者の母語と対応させるような指導をすればよい。

(注)

1. 本論文は迫田（1991：15）の非現場指示用法の分類に従う。
2. 長友（1992）参照。
3. 坂本正（1994）に詳しい。

参考文献

- 金水敏・田窪行則（1990）「談話管理理論からみた日本語の指示詞」『日本語研究資料集7』ひつじ書房 pp.123-149
- 坂本正（1994）「化石化について」第3回「第2言語習得研究会」合同研究会
- 佐久間鼎（1951）『現代日本語の表現と語法』（改訂版）厚生閣
- 迫田久美子（1991）『日本語学習者による指示詞「コソア」の習得に関する研究』広島大学院教育学研究科 修士論文
- 正保 勇（1981）「コソアの体系」『日本語の指示詞』国立国語研究所 pp.53-119
- 長友和彦（1992）「日本語の誤用分析」『日本語教育学』奥田邦男編 福村出版 pp. 158-165
- 堀口 和吉（1990）「指示詞コ・ソ・アの表現」『日本語学』Vol9,No3 明治書院 pp.57-68
- Dulay, H. Burt, M. Krashen, S. (1982) *Language Two*. New York :Oxford University Press
- Ellis, R. (1985) *Understanding second language acquisition*. Oxford University Press

（お茶の水女子大学日本言語文化専攻修了生）